

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

3月4日(水)～9日(月)

第17回 **稜の会**

今展は2009年、「自由な制作精神を志し、自らの稜線を歩き、頂を目指す」という理念のもと、立軌会を主なる発表の場とした現代洋画壇を牽引される先生方による展覧会としてスタートし、17回目の展覧となる本年度で最終回を迎えます。それぞれの頂きを結ぶ山の稜線が空と大地をきりと分かちつように、明快な画域を極める渾身の作をご発表いただく場として、真摯でありながら、たおやかな姿勢で制作に取組む先生方それぞれの意欲溢れる創造の世界を、ぜひご覧ください。

(稜の会会員)

- | | | | |
|------|-------|-------|---------|
| 赤堀 尚 | 遊馬 賢一 | 大庭 英治 | 故 笠井 誠一 |
| 金子 演 | 志村 節子 | 福島 唯史 | 前田 利昌 |
| 松田 環 | 山田 嘉彦 | 横森 幹男 | |

(敬称略・50音順)

3月11日(水)～16日(月)

第十五代 **酒井田 柿右衛門 展**

1968年にお生まれになった先生は、1994年から父の十四代に師事され、精進を重ねながら2014年2月に名跡を受け継がれました。ヨーロッパに大きな影響を与えた17世紀最盛期の頃の柿右衛門様式を原点として、今の時代にどのように調和させるかを常に考え、十五代を代表する新しい題材や、余白を意識した構図、造形へ果敢に挑戦されておられます。本展では、伝統を受け継ぎながら、新しい時代の創造に向け試みた渾身の作品を一堂に展覧いたします。



「濁手 柿文 壺」
(径30.7×高さ43.3cm)

3月18日(水)～23日(月)

写実の現在(いま)

写実絵画が再び注目を集めて久しい現在、その表現は多様な広がりを見せています。本展では、年代も表現方法も異なる6名の画家たちによる作品を一堂に展覧いたします。独自の写実世界を追求し、寡作ながら確かな存在感を放つ画家たちの現在(いま)を、ぜひご覧ください。



大谷 郁代
「光と時の行進」
(30M)

- (出品作家)
- | | | | |
|-------|-------|--------|------------|
| 大谷 郁代 | 田中 英生 | 廣田 真知子 | 安富 洋貴 |
| 山梨 備広 | 行 晃司 | | (敬称略・50音順) |

はやし ゆか

志野 林 友加 展

室町時代に可見・土岐で焼かれた志野は美濃桃山陶を代表する焼き物です。その中でも友加先生は独自の世界を確立、現代的かつ丁寧なシルエット、ピンクやグレーの優しい色合い、その中に凛とした力強さが共存しています。日頃より真摯に志野と向き合い作陶を重ねるにつれて、円熟味も増しておられます。友加先生の渾身の新作をどうぞご覧ください。



「志野茶壺」(12.8×高さ10.8cm)

3月25日(水)～30日(月)

鈴木 徹 展 -破殻-

先生は1964年に岐阜県多治見市に生まれ、緑釉のグラデーション、釉目や泥漿を施した力強い肌合いなど、伝統的な織部とは一線を画す、多様な緑の表現を切り拓いてきました。今展では、叩きの技法によって器体を彫らさせる過程で自然に生じるヒビや亀裂を特徴とした「破殻」や、落ち葉から朽ち葉へと移ろう時間の変化を色彩で表現した「赤朽葉」の新シリーズを中心に、花器、壺、茶碗、皿などの新作を一堂に展覧いたします。ぜひこの機会に、ご覧くださいませようご案内申し上げます。



「破殻」(径33.0×高さ28.5cm)

こ まき てっ べい

小牧 鉄平 作陶展

小牧先生の二回目の展覧会を開催いたします。六古窯の一つである信楽の穴窯で焼成した焼締陶や、先生が5年前程から始めた彩色技法を用いた焼締陶など。伝統から始め先生なりに進展した器たち、壺、鉢、茶器、酒器、食器等を展覧いたします。この機会にぜひご高覧賜りますよう、よろしくお申し込み申し上げます。



「炭化彩色水指」(径19.2×高さ19.0cm)

高島屋大阪店6階ギャラリーNEXTのご案内

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

3月4日(水) 3月11日(水) 3月18日(水) 3月25日(水)

海野 厚敬 展「第49話」



物語のクライマックスは誰もが高揚する場面ではあるが、その直前に漂う「これから何かが起きそうな気配」にも強い魅力が存在する。海野先生は、まさにその余韻や空気感こそが物語の本質的な魅力であると語り、その情景を描き出されます。さまざまなエピソードを経て、いよいよ佳境に入る瞬間を捉えた作品の数々を、ぜひご覧ください。

「あの歌」(116.8×91.0cm)

3月11日(水) 3月18日(水) 3月25日(水)

※3月17日(火)は開催いたします。

ツジモト コウキ 展 ~悠然優美~



現代日本画家・ツジモトコウキ先生は、「生き物たちが紡ぐ幽玄なる世界」を主題に、動植物の姿を通して生命の神秘と美を描き出しています。古典的な日本画の技法と象徴的なモチーフを基に、鮮やかな色彩と現代的なデザイン感覚を融合させ、作品には生き物たちの愛らしさや逞しさ、植物の気高くも繊細な美しさが織り込まれています。一枚一枚の画面に、観る者の想像力を静かに喚起する物語が息づく作品の数々を、ぜひご覧ください。

「虹彩の潮路」(30M)

3月25日(水) 4月1日(木) 4月6日(月)

※3月31日(火)は開催いたします。

浅野井 春奈 展 Light City



出会った人々や見た景色、印象に残った瞬間を再構築して木彫で表現されている浅野井春奈先生の初個展。昨年、薄い木の材を圧着した合板素材の特性に触発され、陰影と線描の要素を取り入れた制作により絵画的な作品を目指しています。

「ゾーン30」(25×13×高さ25cm)

4月1日(水)～6日(月)

—いしの耀き—
ゴジラの好敵手モスラも描いた
村上 裕二 日本画展

本展では、村上裕二先生が長年向き合ってきた日本画の伝統的な技法と精神性を礎に、日本の視覚芸術と時代の記憶を重ね合わせた作品を発表いたします。本年は1961年公開の映画『モスラ』から65周年。1996年公開の『モスラ』から始まる平成モスラ3部作の30周年というダブルアニバーサリーにもあたり、村上裕二先生の描くオリジナル作品に加え、『モスラ』や、昨年30周年を迎えた『バーニングゴジラ』の新作を含む作品の数々を一堂に展覧いたします。



「モスラ =平成ゴジラ対戦=」(10F/キャンバス着彩)
©MURAKAMI YUJI/TM & © TOHO CO., LTD.

4月8日(水)～13日(月)

—風を編む— 狩俣 公介 展

このたび高島屋では、日本画家・狩俣公介先生の個展を開催いたします。先生は1978年千葉県生まれ、東京藝術大学大学院博士課程を修了後、院展を中心に活動されています。今展では、一瞬の情景を独自の感性で鮮やかに切り取り、モノトーン調の色彩でシャープに描いた新作20余点を展覧いたします。この機会にぜひご覧ください。



「波濤」(20号)

—くろいわ たつひろ—
黒岩 達大 作陶展

先生は備前須恵作家の好本宗峯に師事し、可見市久々利大平で作陶しています。先生は、植物の生命力を力強く表現し、美濃陶芸展や東海伝統工芸展で最高賞を受賞しています。日々作陶に励み、「いかに無駄をそぎ落とせるか」をテーマに掲げ、桃山陶を意識しながらも、自分なりの形を追求しています。日本の美意識と精神を受け継ぎつつ、現代の感性に共鳴する美しい色彩と独創性に満ちた先生の作品をどうぞご覧ください。



「緑釉花器」(24×21×高さ15cm)

4月15日(水)～20日(月)

重要無形文化財「小石原焼」保持者
福島 善三 展

先生は、小石原焼「ちがいわ窯」の窯元16代目として、1959年に福岡県朝倉郡にてお生まれになられ、伝統的な技法に緻密かつ独創的な作風で高い評価を受け、陶芸界に新風を巻き起こし、2017年にはわずか57歳で福岡県の陶芸家として初の重要無形文化財保持者として認定されました。本展では、代表作 中野月白瓷壺をはじめ、新しく開発、発表された中野青瓷、赫釉、中野始釉など多彩な技法による新作を展覧いたします。



「中野月白瓷壺」
(径34.0×高さ26.0cm)

—うお ずみ ゆう こ—
魚住 侑子 展 —あわいの光—

目の前に確かに感じられる気配でありながら、どこか遠い世界の情景のようでもあり、それでいて自分自身の奥深くにある「懐かしさ」とも結びついている、そうした静かで澄んだ空間を描き出す魚住先生。近年では、和紙の透過性を活かして裏面から彩色する「裏彩色」や、銀箔を貼る「裏箔」の技法に取り組み、繊細な空気感の奥行きと透明感を湛えた作品を生み出されています。ぜひ、その作品の数々をご覧ください。



「あわいの光 -桜-」(25P)

4月22日(水)～27日(月)

—ふじ た じゅん—
藤田 潤 ガラス新作展
—内なる声をガラスに込めて—

先生は1951年東京都に生まれ、文化勲章受章者で父・喬平先生のもと、作家の道に進まれました。風、雲、水といった自然界や生命の尊さをテーマに、ガラスそのものに内包された美を、温かみのある色彩と美しいフォルムが調和した作品で表現しておられます。今回は、未来を見据えるまなざしを宿した青年像・女性像の新作を発表いたします。そのほか、生命力溢れる燕を表現した作品や、レースガラス作品、花器などの新作を一堂に展覧いたします。



「青年」(36.0×24.0×高さ50.0cm)

額装 —とある作り手の仕事—

絵画は額縁によって彩られ、鑑賞するものとなる。絵が額を彩るのか、額が絵を彩るのか…そんな額と絵画の素敵な関係を感じていただけましたら幸いです。

〈出品予定作家〉

石原 孟 岩谷 晃太 杉山 佳
玉井 伸弥 松岡 歩 山田 雄貴
※額装:井上滔山堂・井上和好 (敬称略・50音順)



TAKASHIMAYA
Art Information
2026 3・4月
高島屋大阪店6階ギャラリーNEXTのご案内

4 8 20
WED MON
あ だ ち あ つ し
足立 篤史 個展 From Bits to Atoms

※4月14日(火)は開催いたしません。



時代はアトム(物質)からビット(情報)へと唄われて30年、すでに情報化社会にはその永続性に疑問符が打たれています。モチーフが存在した当時の印刷媒体を使って、形がなかった記憶をカタチにし、「記録」として残す従来の制作と、物質化した情報の劣化、または喪失の表現の新作を加えて待望の初個展を開催します。

「Objects That Remember」(14×21×高さ17cm)

4 22 5 4
WED MON
—ふじ もと あき ひろ—
—ことばのおつかい— 藤本 明洋 木彫展

※4月28日(火)は開催いたしません。



多くの人にとって、文字や言葉が思いを伝える術だとしたら、絵を彫り漆を使って彩色することが藤本先生の思いの伝え方…表情豊かな人物や独特の優しさを持つ動物に花や尾ひれ、翼の組み合わせは伝えたい、届けたいという思いの表れです。

「ことばの行方」(25×28×高さ53cm/檜・漆・水晶・彩色)